

ツヨク、
ウツクシク、
スマイヨク。

PERFECT
SERIES

遮熱

PERFECT
TOP **Si**

1液水性ラジカル制御形シリコン系ハイブリッド高耐候塗料

ニッペ

パーフェクトトップ® Si 遮熱オプション

期待耐用年数

最大 **15** 年



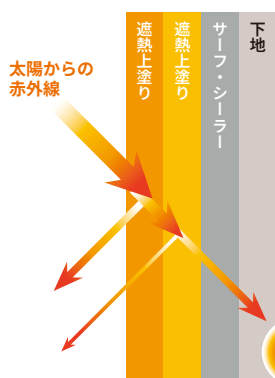
サーモアイテクノロジー

表面温度上昇を抑えるラジカル制御形シリコン系遮熱塗料登場

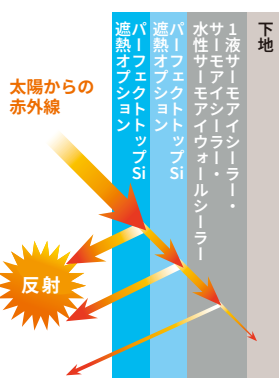


サーモアイテクノロジーとは

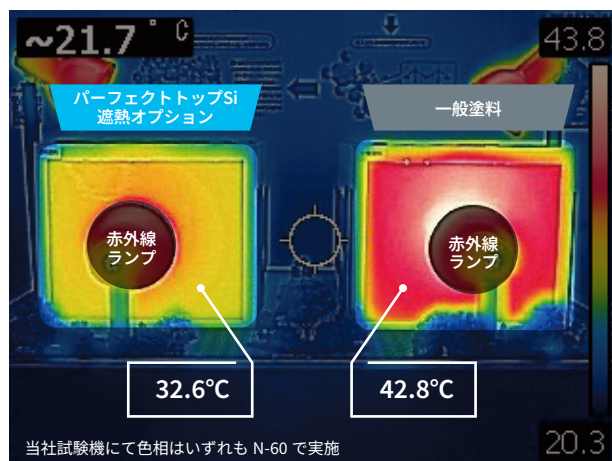
従来遮熱塗料の場合



パーフェクトトップSi
遮熱オプション



上塗りと下塗りのダブル反射により
高い遮熱性能を発揮



実測値で表面温度最大約10℃低減※

※本カタログに記載された遮熱効果を示す数値は特定の場合における実測値または計算値であり、その効果を保証するものではありません。



標準色について

※遮熱オプションでは「遮熱 ND-102」のように、すべての色番号に「遮熱」が付きます

ND-010 全日射73.6% (近赤外 84.4%)	ND-371 全日射68.9% (近赤外 82.8%)	ND-401 全日射60.7% (近赤外 80.7%)	ND-102 全日射70.3% (近赤外 82.6%)	ND-250 全日射70.9% (近赤外 81.4%)	ND-3931 全日射59.1% (近赤外 78.9%)	ND-3245 全日射59.6% (近赤外 81.3%)	ND-3733 全日射58.2% (近赤外 77.8%)
ND-011 全日射64.1% (近赤外 82.3%)	ND-372 全日射64.1% (近赤外 81.1%)	ND-400 全日射71.4% (近赤外 85.5%)	ND-174 全日射77.1% (近赤外 84.8%)	ND-105 全日射74.6% (近赤外 84.1%)	ND-3320 全日射56.7% (近赤外 79.3%)	ND-2711 全日射51.5% (近赤外 75.0%)	ND-5503 全日射42.9% (近赤外 70.3%)
ND-012 全日射50.8% (近赤外 75.9%)	ND-375 全日射42.8% (近赤外 69.7%)	ND-108 全日射71.9% (近赤外 83.9%)	ND-152 全日射56.1% (近赤外 76.8%)	ND-155 全日射75.7% (近赤外 86.4%)	ND-3355 全日射68.1% (近赤外 80.7%)	ND-2713 全日射50.8% (近赤外 74.5%)	ND-7893 全日射45.1% (近赤外 74.3%)
ND-342 全日射43.8% (近赤外 71.5%)	ND-376 全日射49.9% (近赤外 71.5%)	ND-184 全日射57.9% (近赤外 78.0%)	ND-111 全日射76.8% (近赤外 84.6%)	ND-4570 全日射79.6% (近赤外 84.6%)	ND-2945 全日射63.7% (近赤外 79.2%)	ND-2947 全日射61.5% (近赤外 75.2%)	ND-0050 全日射44.2% (近赤外 72.5%)
ND-370 全日射79.0% (近赤外 84.0%)	ND-503 全日射78.4% (近赤外 85.9%)	ND-460 全日射68.2% (近赤外 81.0%)	ND-146 全日射69.3% (近赤外 83.0%)	ND-3531 全日射59.5% (近赤外 79.8%)	ND-4733 全日射63.0% (近赤外 78.0%)	ND-2917 全日射51.0% (近赤外 72.0%)	

その他
対応可能標準色

ND-110 / ND-210 / ND-103 / ND-112 / ND-218 / ND-430 / ND-104 / ND-280 / ND-461 / ND-490 / ND-109 / ND-281 / ND-282 / ND-491 / ND-320 / ND-322 / ND-343 / ND-373 / ND-500 / ND-501 / ND-530

本オプションの対象は淡彩色と一部中彩色に限定しております。

(一社) 日本塗料工業会発行の「塗料用標準色」からも色相をお選びいただけますが、出荷可能な色相については別途ご相談いただくか、出荷可能な色相については事前に最寄りの営業所までお問合せください。本オプションはつや調整も対応しております。(つや有り、7分つや有り、5分つや有り、3分つや有り、つや消し)

☆この見本は印刷のため、実物とは異なる場合があります。☆塗料の種類、つやの違いにより同じ番号でも色が多少異なる場合があります。☆広い面積に塗られた場合、実際の色が見本帳の色よりも多少明るく見える場合があります。☆濃彩色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがありますのでご注意ください。☆色見本の内容については、将来予告なしに変更することがあります。☆全日射反射率の数値は、「JIS K5602 塗膜の日射反射率の求め方」に準拠し、1液サーモアイシーラーとパーフェクトトップ Si 遮熱オプションにて全波長域の日射反射率を実測。☆日射反射率数値は、下地の状態や塗料種、塗装仕様、施工条件などによって多少の幅を生じる場合があります。

NIPPON PAINT

標準塗装仕様(塗り替え)

●モルタル面、コンクリート面の塗り替えなど

塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地調整	活膜を残し劣化塗膜は入念に除去する。ほこり、汚れを除去、清掃する。						
下塗り	1液サーマアイシーラー	1	0.14~0.28	4時間以上7日以内	無希釈	—	はけ・ウールローラー・エアレススプレー
上塗り	パーフェクトトップSi 遮熱オプション	2	0.11~0.17	3時間以上	水道水	3~5	はけ・ウールローラー・エアレススプレー

●窯業系サイディングボード、ALCパネル面の塗り替えなど

塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地調整	活膜を残し劣化塗膜は入念に除去する。ほこり、汚れを除去、清掃する。						
下塗り	1液サーマアイシーラー	1	0.14~0.28	4時間以上7日以内	無希釈	—	はけ・ウールローラー・エアレススプレー
上塗り	パーフェクトトップSi 遮熱オプション	2	0.11~0.17	3時間以上	水道水	3~5	はけ・ウールローラー・エアレススプレー

●付帯部金属、金属パネル外壁、FRPの塗り替えなど

塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量(kg/m ² /回)	塗り重ね乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率(%)	塗装方法
下地調整	膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜は、周辺部を含めて入念に除去する。さびは電動工具やサンドペーパー・研磨布などを用いて除去し、清掃する。						
下塗り	サーモアイプライマー	1	0.16~0.18	4時間以上5日以内	塗料用シンナーA	0~10 0~5	はけ・ウールローラー エアレススプレー
上塗り	パーフェクトトップSi 遮熱オプション	2	0.11~0.17	3時間以上	水道水	3~5	はけ・ウールローラー・エアレススプレー

※一般鉄部にはサーモアイプライマー以外に、ハイボン20デクロ、ハイボンファインプライマール、1液ハイボンファインデクロ、エスパワーンエース、速乾PZヘルゴンエコも使用できますが、反射率がやや低下する可能性があります。
※さびが発生しやすいエッジ部もしくはさびが発生している箇所を塗装する場合、入念なクレン後、サーモアイプライマーで部分補修を行ってから下塗りしてください。

※上記の数値値は、すべて標準のものです。被塗物の形状・素地の状態・気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。

塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間をまもってください。（縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります）

※カタログに記載されている内容は一般的な環境下での施工を想定して記載されております。

特別な環境が想定される施工現場・部位に塗装される場合は、事前に必ず当社営業までご相談いただきますようお願いします。

適用下塗り

仕様種	部位	塗料名	適用下地
ダブル反射仕様	外壁	1液サーマアイシーラー	●無機・フッ素下地の高意匠サイディングボード ●モルタル面 ●コンクリート面 ●窯業系サイディングボード ●ALCパネル面
		サーモアイシーラー	
		水性サーモアイウォールシーラー	●モルタル面 ●コンクリート面 ●窯業系サイディングボード ●ALCパネル面
	付帯部	サーモアイプライマー	●金属系サイディングボード ●付帯金属
上塗り単体遮熱仕様※	外壁	パーフェクトサーフ	●モルタル面 ●コンクリート面 ●窯業系サイディングボード ●ALCパネル面

※カタログの「ダブル反射仕様」と比較して日射反射率(遮熱性能)は低下する場合がございます。また、その他パーフェクトトップSに適用可能な各種下塗り(非遮熱品)もご使用いただけますが、「上塗り単体遮熱仕様」に分類されます。

※水性サーモアイウォールサーフは適用できません。

施工上の要点と注意事項 ※詳細な内容については、各製品の製品使用説明書などにてご確認ください。

1. 遮熱塗料専用下塗りを使用しないことと遮熱性能が低下します。必ず専用の下塗りをご使用ください。
2. 遮熱塗料は特殊な顔料を使用しているため、経年による変退色の傾向が一般塗料と異なる場合がありますが、遮熱性能や保護性能への大きな影響はありません。
3. 遮熱塗料では、特殊な顔料を使用しているため、使用量が少ないと色相が変化して見えたり、十分に隠れないことがあります。
4. 内外壁の新設仕様の場合は、必ず下塗りに水性サーモアイウォールシーラーを塗装してください。
5. 風化面・吸込みの著しい下地や素材にセメント成分などが混ざっておりエフロレッセンスが発生するおそれがある場合は、溶剤系のサーモアイシーラーをご使用ください。
6. 絶えず結露が発生するような用途、場所での使用は避けてください。著しい結露が発生する場所では、塗料中の水溶成分が表面に溶出し、結着物などとなって析出するおそれがあります。著しい結露が予測される場合は、塗装を避けるか、溶剤系塗料での塗装をおすすめ致します。
7. 蓄熱しやすい建材(軽質モルタル、ALC、窯業系サイディング、発泡ウレタン使用建材など)を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシン、弾性スタッコ、アクリルトップなどの場合、塗り替え段階ですでに旧塗膜が膨れていることがあります。そのまま塗装すると膨れがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なると、建材の変形、塗膜の膨れ、はく離が生じることがありますので、最善の営業所などにご相談ください。
8. 塗装時の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
9. つや調整では、はけ、ローラーでの塗装はむらが出やすくなりますので、スプレー塗装をおすすめいたします。
10. つや調整品では、塗り継ぎや補修でつやむらが出やすいので、面を切って通しで塗装してください。
11. 過剰希釈をすると本来のつやが現れないおそれがありますので、規定の希釈率をまもってください。
12. つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際つやと若干違って見える場合がありますので、事前に試し塗りをして確認してください。
13. つや調整品は、使用中にも塗料液が分離しやすい場合がありますので、適宜かきはんしながらご使用ください。
14. 防藻・防カビ効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理して除去および殺菌処理をしてから塗装してください。
15. 被塗物の構造、部位、塗装仕上げ形状、環境条件などの影響で、本来の低汚染機能が現れられない場合があります。
16. 著しい汚染が発生しそうな箇所には、状況に応じてニッペグリスコートをおバーコート剤として塗装することで汚染を軽減することがあります。
17. 塗装後、乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風のない場合には、膨れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後剥がして除去してください。
18. 色相によっては降雨、結露によって色れになる場合がありますが、乾燥すると元に戻ります。
19. 乾燥後の塗膜に付いた汚れは、シンナーなどでの溶剤には拭かず、セッパル水で洗浄してください。
20. スプレーノズルの先端は、ときどき水洗いをしてください。作業効率の低下および塗りむらの原因になります。
21. 乾燥条件によっては塗膜表面に粘着感がある場合がありますが、時間とともになくなります。
22. 反応硬化タイプの塗料のため、使用後のしけなどはできるだけ早く水で洗浄してください。固まった場合は、すみやかにラッカーシンナーで洗浄してください。
23. 動物のけは、はけが固まったりタタになりやすいので、できるだけナイロンはけをご使用ください。
24. 日塗膜に発生した藻・カビは、洗浄など必ず除去し、洗浄面としてください。付着阻害をおこなっておく必要があります。
25. 既存塗膜のはく離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
26. 風化面・吸込みの著しい下地では、ニッペ浸透性シーラー(新)・ニッペ1液ファインパーフェクトシーラー、ニッペファインパーフェクトシーラー、ニッペファイン浸透シーラーを使用してください。なお、使用量は濡れ感が出るまでを目安とし、素地面の吸込み箇所がある場合はその部分を増し塗りしてください。
27. 外壁パネル面にもご使用いただけますが、平滑(フラット)な面に塗装した場合、塗り継ぎむらなどの仕上がり不良に至る場合がありますのでご注意ください。
28. 塗り替え時のシーラーは、ウルトラシーラーⅢまたは水性カチオンシーラーをご使用ください。溶剤系シーラーのご使用は、旧塗膜の種類によっては溶剤膨れを発生させることがあります。
29. シーリングの上にも、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
30. タイル面の洗浄に使用する薬剤が塗膜面に付着すると、変色や早期劣化などを生じることがありますので、この様な場合には薬剤が付着しない様に塗膜面の養生を行ってください。
31. 素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下(ケツト科学社製CH-2型で測定した場合)、または5%以下(ケツト科学社製H1500シリーズ・コンクリートレンジで測定した場合)の条件で塗装してください。
32. 表面のこみ、ほこり、エフロレッセンス、レイタンスなどは除去し、目塗り、ジャンカ、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にしてください。
33. ALC面、多孔質下地、コンクリートブロック面など外部の素地において巣穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント系下地調整材(ニッペ1材カチオンフィラー、ニッペ1材フィラー#200)などで処理してください(合成樹脂エマルジョンパテの使用は避けてください)。
34. 内外壁の新設仕様の場合は、必ず下塗りにシーラーを塗装してください。
35. 材齢の若いコンクリートなどセメント成分が十分に硬化していない場合、エフロレッセンスが発生するおそれがありますので、溶剤系シーラーをご使用下さい。
36. 新設の押出成形セメント板、GRC板、フレキシブルボードなどは、下塗り材としてニッペ浸透性シーラー(新)・ニッペ1液ファインパーフェクトシーラー、ニッペファイン浸透シーラーをお使いください。
37. 塗装直後から頻繁に人が触れるようなドアの一部や手すりなどでは、皮膚の影響により塗膜表面の軟化が起こるおそれがあります。必要に応じて保護プレートなどで接触防止を行ってください。
38. 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
39. 塗装時および塗料の取り扱いは、換気は十分に行い、火気厳禁にしてください。
40. 飛散防止のため必ず養生を行ってください。
41. シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離などの不具合を起こすことがありますので、原則として行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペブリードオフプライマーを下塗りすることで、可塑性移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
42. 笠木、天端など長時間水が滞留する箇所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置位置などに配慮し、換気を促してください。
43. 薄めすぎは隠れ不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
44. 上塗りに混ぜたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を上塗りに塗装してください。グリーン・イエロー及び刷毛塗装で、下塗り塗膜の再溶解や染みが発生する場合には、スプレー塗装をしてください。
45. 調色には必ず当社専用の原色をお使いください。
46. 濃彩色や汚れた原色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触するような箇所を使用する場合は、弱溶剤タイプのビュアライドUVプロテクトグライヤーシリーズ(MK/DF/S)を上塗りに塗装してください。グライヤーのローラー及び刷毛塗装で、下塗り塗膜の再溶解や染みが発生する場合には、スプレー塗装をしてください。
47. 大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
48. はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面肌が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
49. ローラー塗装の場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なると見えます。
50. 塗装方法により色相が多少変化する場合があるので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
51. 汚れ、きずなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
52. ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
53. 可塑性が多く含まれる塩ビクロス、塩ビシロ板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革などへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようにご注意ください。
54. 平滑仕上げや鏡面仕上げの場合は、素材や素地の状態によって、吸込みや巣穴によるピンホール、凹凸などを防止するため、パテ工程や研磨工程が必要になる場合があります。
55. 塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて底底の降降物を十分にかくはんしてご使用ください。
56. 開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
57. 大気中の浮遊成分が多少地域では、この鉄成分が塗膜表面に付着し、塗膜が赤褐色に変色したように見える場合があります。
58. 塗料溜滞の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
59. 内容物・容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。
60. 塗料、塗料容器、塗装具を廃棄する時には、産業廃棄物として処理してください。容器、塗装具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すや環境に悪影響を及ぼすおそれがあるため、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。

■本カタログ掲載商品の詳細な危険有害性情報や使用上の注意事項等については、安全データシート(SDS)をご参照ください。■本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は、事前に相談ください。

日本ペイント株式会社

北海道支店 ☎011-370-3101 近畿支店 ☎06-6455-9608
東北支店 ☎022-232-6711 中国支店 ☎082-281-2180
関東支店 ☎03-5479-3614 四国支店 ☎0877-56-2346
北関東信越支店 ☎03-5479-3614 九州支店 ☎092-751-9861
中部支店 ☎052-461-1960

- 本カタログの内容については予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
- 本カタログ中の商品名、ロゴマークは、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント株式会社・その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
- Copyright © 2026 NIPPON PAINT Co., Ltd. All rights reserved.
- 日本ペイントホームページ <https://www.nipponpaint.co.jp/>

期待耐用年数について

最新情報・お役立ち情報発信中

こちらから
ご確認ください



日本ペイント
公式LINE



カタログNo.
NP-E100
NP260700P

2026年7月現在